長野市立博物館　特別展

# 川中島の戦いと真田

# 凡例

一、この図録は平成二十八年九月十七日から十月三十日までを会期として開催する長野市立博物館特別展『川中島の戦いと真田』の展示図録として作成した。

一、本書の掲載順と展示の順序は必ずしも一致しない。また掲載資料のなかには、展示されていないものもある。

一、掲載資料のうち、国宝は◉、重要文化財は◎、県指定文化財は◆、市町村指定文化財は▲で示した。

一、本書掲載資料の写真は、御所蔵先から借用した写真のほかに、次の機関より御提供いただいた。

上越市立総合博物館（一〇一頁）、上越市公文書センター（一〇三頁）

一、また本書掲載資料の写真は一部、高久良一氏および大井川茂兵衛氏に撮影を委託した。

一、本書の各章は当館学芸員　原田和彦が執筆し、作品解説は原田および研究員宮澤崇士が分担して執筆した。

一、展示構成は原田が担当し、当館学芸員　小森明里が補助した。

一、本書文章のうち、時代によって名前を替えた人物については、一般的に知られている名を用い、適宜（　　）を付して補った。なお、真田信幸は関ヶ原の戦いの後、信之と称したとされるが、本書では第五章第二節以降の記載については基本的に信之とした。

一、本展示に関連して、企画、資料収集、写真撮影、写真提供などで多くの個人並びに機関から援助を賜った。巻末に記し、感謝の意を表する。

# 開催にあたって

鎌倉時代以降、信濃も武士の時代となりました。北信濃では、島津・高梨・市河などの有力な武士たちがそれぞれの勢力拡大を図っていきます。そのような中、応永七年（一四〇〇）室町幕府が派遣した信濃守護と、それに反旗を翻した国人連合との戦い、いわゆる「大塔合戦」が起こったのでした。合戦の様子を記したとされる『大塔物語』には後の真田家と目される「実田氏」の名も見えます。

十六世紀に入り、甲斐国をほぼ統一した武田家は、いまだ統一勢力ができていなかった隣国信濃への侵攻をはじめました。村上氏をはじめとする信濃の国人衆の多くは、それまで築いてきた縁を頼って越後の上杉家へ助けを求めます。ここに、現在まで語り継がれる「川中島の戦い」の端緒が開かれたのです。

本展示では、はじめに川中島の戦いにいたるまでの北信濃の武家政権を描き出し、次に、武田・上杉双方にまつわる諸資料を中心に、信濃の国人衆のあり方に大きな変化を及ぼした川中島の戦いの諸相を展示しました。この戦いの後、武田家の重臣たちや真田家がどのような生きかたを選択したのか、この点を掘り起こすことで「川中島の戦い」の歴史的な意義の再考を試みました。

それを受けて、本展示の後半では、信濃の中小国人衆から武田家重臣へと台頭し、後に大名の地位を獲得していく真田家の姿に注目しました。この中で、徳川家臣として上田城の戦いで真田家と刃を交えた信濃小諸城主・仙石秀久や、大坂の陣で真田信繁（幸村）を討ったとされる越前松平家にまつわる資料を展示し、戦国時代から江戸時代への転換期の時代性にも目を向けてみました。

最後になりましたが、展示開催にあたりまして、御宝物、御所蔵の作品の出陳をご快諾いただきました御所蔵者の皆様、そして、種々ご教示いただきました皆様方に、心より御礼申し上げます。

# 目次


開催にあたって ―― 3

第一章　信濃武士 ―― 5

第一節　太田荘　―島津氏―

第二節　「金沢文庫文書」

第三節　信濃守護　―小笠原氏―

第四節　北信濃の武将　―市河氏―

第二章　川中島の戦い ―― 21

第三章　武田家をささえた武将 ―― 39

第一節　真田氏の発祥

第二節　武田家の家臣

第三節　長篠の戦いと越前・松平家

第四節　武藤喜兵衛から真田昌幸へ

第四章　武田家の滅亡 ―― 59

第一節　第一次上田合戦

第二節　小田原北条氏との戦い

第五章　天下分け目の関ヶ原の戦い ―― 69

第一節　第二次上田合戦

第二節　真田信幸とその妻

第三節　小諸城主・仙石秀久

第四節　もうひとつの真田家

第六章　それぞれの大坂 ―― 95

第一節　それぞれの戦い

第二節　越前松平家の武功

終　章　近世大名・真田家 ―― 105

第一節　上田から松代へ

第二節　松代藩・真田家

第三節　柴の隠居所

資料翻刻 ―― 122

主要参考文献 ―― 133

謝　辞 ―― 134